

2020.12.20

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

開花記録表(植物の動き)を 1月~4月に貼りかえました

赤塚公園サービスセンターは、園内の武蔵野台地崖線に生きている植物の開花記録を、季節ごとに、また地区ごとに一覧表にしてロビーに掲示してきましたが、新しい年を迎えるにあたって、1月から4月までの表に貼りかえました。

掲示してあるのは1~4月までに開花が観察された植物が中心なので、生育しているすべての植物をフォローしているわけではありません。それでも、この5年間で、一年中どこかの季節で開花を観察できた種は、次のように実にたくさんあります。

城址地区で 約 **299** 種

八丁目の林の周辺で

約 **146** 種

大門地区で 約 **223** 種

「雑草」とか「雑木」と呼ばれる植物でも、一つひとつに個性があり、すべてに名前が付けられていて、健気に命を燃やしています。

しかも、赤塚公園で生きている植物はこれがすべてではありません。2008年から2013年にかけて行われた環境省提唱の「モニタリングサイト1000里地調査」では69科、320種が確認(注)されているのだから、園路から普通に歩いて観察するだけでは見つけれない植物がまだまだたくさんあるということです。

(注: いたばし自然観察会・区の花ニリンソウを保存する会発行『残そう! 崖線の自然』より、大門・番場・沖山地区対象)

同じ崖線でもエリアによって環境が異なる

記録表では開花が毎年続けて観察できなかった種(植物の名前)や同定(植物の名前を確定すること)が出来なかった種などを除いているのですが、それでも1~4月だけでも記録すべき植物はこんなにあって、掲示スペースが足りません。

モニタリングで大門地区から城址地区までを3つのエリアに分けて記録していますが、それは各エリアの環境が異なっているからです。このように表にしてみると、そこに生きている植物の種数も違えば、植物の相も異なっていて、それぞれのエリアに特徴があることも分かります。

ニリンソウの「異常早期開花」が広がる

記録表からニリンソウを抜き出して見ました。赤く塗りつぶしたセルが本格的な開花状態なのですが、まず、大門地区は城址地区よりも遅れて開花していることが分かります。環境の違いが開花時期の違いに現れていると言えます。

大門地区			1月	2月	3月	4月	
2016年	D-003 ニリンソウ	●	●	●	●	●	
2017年		●	●	●	●	●	
2018年		●1株、蕾10	●1株	▲雪割キ萎縮	●2株	●葉急に広がる	●5分咲き
2019年		●数株	●数株、2017ほどの季節感	●2輪、2017	●数株、葉の	●2輪、葉の	●2輪、葉の
2020年		●メインステージ東4輪、東	●メインステージ	●メインステージ	●メインステージ東、東くぼ	●2輪、葉の	●2輪、葉の

赤塚城址			1月	2月	3月	4月	
2016年	J-004 ニリンソウ	●	●	●	●	●	
2017年		●	●	●	●	●	
2018年		●1輪、葉の	●2輪、葉はかなり展開	▲雪割キ萎縮	●葉12月に開花	●葉14月に開花	●葉急に広がる
2019年		●10株以上葉の展開	●花2輪、カガ	●花3輪、カ	●北斜面下	●花5輪、かなり展葉	●2輪、葉は全面に出始める
2020年		●花1輪、展葉2群	●花2輪、カガ	●花3輪、カ	●北斜面下	●花5輪、かなり展葉	●2輪、葉は全面に出始める



それよりも、赤く塗りつぶしていないセルに●の開花マークがついているのにご注目ください。本来ならば開花するのはまだ早い冬に咲きだしてしまっただけの「異常早期開花」がこれです。大門地区ですでに12月からこの現象が見られ、しかも範囲が広がっています。城址地区でも年を追うごとに早まってきています。写真は沖山地区での「異常早期開花」。2020年は開花株数が前年よりも増えています。

「春告げ花」も開花時期が早くなっている

次に赤塚公園での「春告げ花」ともいえるヒメオドリコソウとオオイヌノフグリの年間の動きを見てみましょう。(ただし、2020年の記録は7月以降未記入)

上段=大門 下段=城址		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2016年	D-014 ヒメオドリコソウ												
2017年													
2018年													
2019年													
2020年													
2016年	J-013 ヒメオドリコソウ												
2017年													
2018年													
2019年													
2020年													
2016年	D-011 オオイヌノフグリ												
2017年													
2018年													
2019年													
2020年													
2016年	J-014 オオイヌノフグリ												
2017年													
2018年													
2019年													
2020年													

いずれの種も、5年前の2016年よりも2020年の開花時期が早まっているのが分かります。開花が終わる（花が枯れる）時期は、ヒメオドリコソウは早まっているのに対して、オオイヌノフグリは遅くなっていて秋にも再開花、つまり開花期間が伸びているという違いがあります。

このほかにも、3つのエリア共通で、ノゲシ、スズメノカタビラ、カタバミ、ハキダメギクは開花時期が早まっているというか、ほぼ通年で一年中咲くようになっています。

城址地区では通常冬から春にかけて開花しているキュウリグサが夏季を除いて咲くようになりました。ハナダイコンは開花期が早く終了時期は遅くなっています。大門地区のヤブツバキは開花が遅くなり、終了時期は早まっているということが記録に現れています。

あと5年は観察を続けないと・・・

地球温暖化の影響だとは思いますが、わずか5年間の、しかもかなり粗い記録なので何とも断言できません。最低あと5年ぐらいはより正確な観察を続けなければなりません。ご協力を！